

熱田小児科クリニック 掲示板

6月のテーマ 『百日咳について』

(医)熱田小児科クリニック「ひまわり」スタッフ

百日咳とは…咳を伴う病気のこと、百日咳菌という病原菌から飛沫感染します。百日咳にかからないためには予防が大事といわれ、小さな頃からのワクチン接種が推奨されています。

百日咳菌とは…百日咳と呼ばれる呼吸器疾患の原因となる感染力の強い細菌です。百日咳は、風邪に似た軽い上気道症状(カタル期)から始まり、咳が出始め、呼気性の「ヒュー」という特徴的な発作性の咳(痙咳機期)へと進行します。そして症状は数週間から数か月にかけて徐々に軽快していきます。(回復期)

百日咳菌は誰でも感染しますが、特に乳幼児は、生命を脅かす重篤な合併症を引き起こす可能性があります。百日咳を予防する方法はワクチンであり、ワクチンを接種した人の合併症はそれほど重くならない場合が多いです。

感染経路は、百日咳菌は通常、感染者の咳やくしゃみによって発生する飛沫を介して感染します。

一般的な症状

カタル期→鼻水・鼻づまり 微熱（38度未満） 軽度の咳

乳幼児における無呼吸/チアノーゼ

痙咳期→咳発作

咳の発作が終わり、息を吸い込む際に「ヒュー」とい

う甲高い音を出す

嘔吐 呼吸がしにくい

回復期→百日咳からの回復には時間がかかるとされています。

回復するにつれて、咳はしだいに軽快します。

感染症対策

百日せきにご注意ください

百日咳菌の感染によって、激しいせきの特徴とする急性の気道感染症です。

乳幼児では、激しいせきによる

無呼吸発作
ひこせゅうはっさく

チアノーゼ
顔色や唇、爪の色が紫色に見える状態

けいれん

呼吸停止
に進展することがあります。

こんな症状がみられます

カタル期（約2週間持続）
かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

↓

痙咳期（約2～3週間持続）
発作性、けいれん性の咳が出るようになります。合併症として肺炎や脳症などもあり、乳児では注意が必要です。

↓

回復期
激しい発作は次第に減衰し、やがて回復に向かいます。回復まで、全経過で約2～3か月かかります。

予防と対策

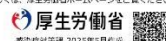
百日せきの予防には、生後2か月から定期接種として接種可能な5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。ただし、接種後年数が経過した人等での発病も見られます。マスク着用、手洗いなどの基本的な感染症対策を心がけましょう。

せきが続く場合は、医療機関の受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急 <https://kodomo-qa.jp/>」のサイトを参照したり、「#8000（こども医療電話相談）」にご相談ください。



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



感染症対策課 2023年3月6日版